



オクソン

倶楽部



1990年 初 春 号

謹んで新春のお祝いを申し上げます。

今日、現代社会におきまして、人間の生命の尊さということが、忘れ去られてしまったのではなからうか、とさえ思われるような、いろいろな殺人、傷害事件が頻繁に行われていきます。特にそういう痛ましい事件が、青少年の若い世代に急激に及び、更に非行少年の暴挙にただただ驚きの外ありません。

もちろんそれにはいろいろの要素があると思うのであります。学校教育の在り方、或は家庭の躰、現代社会の問題等、その原因と対応を早急に対処しなければなりません。要するにわが国戦後における民主主義の行き詰まりではなからうか、と思うのであります。

その根源は民主主義の基本である人間尊重の思想が、他人はどうでも自分さえよければ、という



一方的な人権尊重の不徹底さがもたらした、現代社会の一大現象と思うのであります。要するに私たちは人間尊重の根底である生命の尊厳、いのちの大切さ、という人類根本の問題をジックリ考えなければなりません。

無我の精神

大野 可圓

私たちがよく「生き甲斐」ということを申しますが、実際に自分の生き方というものについて、余り考えていないのではなからうか、人間としてこの世に生まれてきた以上、人間とは一体何か、

人間は何をなすべきか！という人生の一大事を解決することが、人間にとって一番大切なことでもあります。

それには何としても「己れを知る」ということでなければなりません。私たちは常に「俺が俺が」と申しますが、それでは一体何を擱えて己れ、というのか。人間というもの、肉体と精神が直接または間接に因と縁が依り合っていて、この五尺の身

体ができているのでありまして、何処を探しても「これが俺だ」と指させるものは何一つありません。全く姿・恰好だけの仮りそめの人間であります。このように「実我」の存在を否定して「無我」！この無我の真理に徹底せしめよう！とするのが仏法の教えであります。本当の「我」というものは、そのような仮りそめの限られたチツポケなものではありません。もっとも大きい、天地を容れても尚余りある大きな大きな「大我」の存在が「我れ」である、というところに気付くことが「無我」の精神であります。

このように人間というもの、今日あって明日のない、そういう儚ない短い生命のものではなく、空間を超越した宇宙の大真理、これこそ「我れ」の本体であります。空間を云えば僅かに五尺の身体、時間を云えば僅かに六十年・七十年の生命、



そのような小さい「我れ」から飛び離れ、天地に満ち満ちた宇宙大の「我れ」

お正月フランス料理

MENU

- Consommé d'hôte en gelée.
カキのゼリーコンソメ
- Le filet de daurade poêlé au poireaux.
鱈のポワレ赤ワインソース 洋葱とフォワグラ添え
- Aiguillettes de canard et pomme Anna aux truffes
鴨のエグユエット ジャガイモとトリュフのかさね焼添え
- Sorbets de Beaujolais nouveau.
ボジョレーヌーボーのシャーベット
- Filet mignons de "OXON"
オクソン風ステーキ
- Salade de Vert
グリーンサラダ
- Desserts
デザート
- Café
コーヒー

特別コースのため ご予約をお待ちしております。

料金 ¥12,000 (税・サービス・飲みものは別)
期間 1月8日(月)～1月20日(土)

おのおのかえん
聖徳宗第三代管長
総本山法隆寺
百六世管主

社会のために奉仕をする心持ちは、何としても人間欲を超越させる宗教の信仰の力に依らなければなりません。
聖徳太子はその十七条憲法に「篤く三宝を敬え」と明言せられ、何としても国民の肚底に宗教の信仰を基調として、その信念から人生を全うせよ、とおっしゃる。今や「聖徳太子に帰れ！」の時代を痛感するのであります。

お正月は、1月5日
から平常通り
営業いたします

店主